

# ノルウェーの2006/2007年・ 初等中等教育課程改訂

北 川 邦 一

## 要 旨

ノルウェーでは2006/07学年度から初等中等学校教育課程の改訂が実施され、それに  
応じて2009年秋に高等教育機関への新入学制度、2010年春に新職業資格制度が実施され  
る。この改訂は従前の「基礎学校及び後期中等教育に関する法律」(1998年法律61号)  
の基本的枠内で行われ、かつ、1994年後期中等教育改革時に示された「教育課程 一般  
篇」初等中等教育の理念・目的を継承している。しかし新課程実施方針の「教育原則」  
は、初等中等教育を通じるものとして新しく設定された。新課程は、(1)基礎学校科目  
(2)基礎学校及び後期中等教育の共通科目(3)横断的教育課程(4)聾及び強度難聴者の知  
識向上教育課程(5)知識向上教育課程サーミ篇(6)後期中等教育で構成されており、枠組  
みとしては(2)～(5)が新しい。(1)ではノルウェー語、英語の「深化」科目が設置され、  
また選択科目が増やされた。(2)は小・中学校と高校との両教育を一貫する教育を目指  
す、(3)は科目間の連携を目指す、(4)、(5)は少数者の教育を重視するという各意図の  
現れである。(6)では、進学を主とする学科の中の「学問学習専門学科」に造形、理数、  
社会及び経済、言語の4小学科を設け、高等教育への準備態勢を強化した。職業教育自  
体は、概ね従来の諸学科の若干の再編成と見られるが、以上の進学態勢強化、基礎学校  
の選択科目学習の増大により従来よりかなり困難にはなるが、一旦、職業学科に進んだ  
生徒が追加科目修得によって進学資格を得る課程が各職業学科に残されている。

以上のような新教育課程が、ノルウェーの平等主義的教育の伝統、特に1990年代教育  
の最重要課題とされた「すべての者の教育を受ける機会と権利の平等」な保障を状況の  
変化に応じて継承発展させるものであるのか、「適合教育」の名の下での教育の格差拡  
大に重点を移行させるものであるのかは、各科目教育課程等に立ち入った検討及び教育  
変容実態調査による今後の研究課題としたい。

キーワード：ノルウェー、教育課程改訂、教育の平等、適合教育、基礎教育

## はじめに

本稿は、ノルウェーの2006/2007年学年度から開始された新初等中等教育課程について、その概要、教科・科目等の領域構成・授業時間配分等の枠組みに限って、かつ、原則として2007年8月末までを一応の区切りとして報告する。

この教育課程改訂は2004年11月10日のノルウェーの教育研究省 Utdannings-og forskningsdepartementet (略称 UFD) の通知「これが知識向上である」<sup>1)</sup>による基本方針の決定に始まり、改訂は概ね当初予定どおりに下記の年次予定に沿って進行してきている。

2006年秋：第1－9学年と後期中等教育第1段階 (Vg 1 = 第11学年) で新教育課程実施

2007年秋：第10学年と Vg 2 (後期中等教育第2段階) で新教育課程実施

2008年秋：後期中等教育第3段階で新教育課程実施

2009年秋：一般学習能力の新要求による総合大学及び専門大学への最初の学生クラスの入学。

2010年春：職業実習生の新しい制度に基づく専門資格試験または職人資格試験受験の開始。

(なお、上記の「学生」の原語は Trinn であり、正確には「段階」であるが、ここでは判り易さのため「学年」とした。)

ここで、以下の論述に当たって、最小限、概念ないし用語に関して述べておく。<sup>2)</sup>

先ず、「教育課程」は、日本の教育学界では各学校が定めるとする説が有力である。しかしノルウェー語の *læreplan* は *lære* と *plan* の合成であり、逐語訳的には「教育計画」である。この語は上述の日本の説とは異なって、国、地方当局の定める教育の課程の基準、それらの一部としての各科目・教科・教育領域・専門分野等の課程の基準、各学校の教育の課程、各学校の科目・教育領域等の教育の課程という多様な意味で用いられている。故に、本稿では概して「教育課程」の訳語を充て、適宜、「科目(教育)課程」等の訳語も用いる。

次に、*læreplanverket* であるが、これは一方で日本の「学習指導要領」よりは理念的かつ詳細で法の規定としては馴染まない部分を含み、他方で日本よりも地方当局・学校に大きな自由裁量権を認めている。ノルウェーでは法的拘束力があるとして国が定めてきた基準であり、有力な異論も聞かない。故に本稿ではこの語に日本の「学習指導要領」を連想させる「教育課程要領」の訳語を充てる。

第3に *grunnskole* と *grunnopplæring* であるが、両語は同じ *grunn* という語を含んでいる。しかし前者は10年間の義務教育を施す学校を指し、実際には7年間の小学校、3年間の中学校、または両者一貫の学校であり、本稿では「基礎学校」と訳す。後

者は基礎学校での教育だけでなく後期中等教育（の少なくとも普通教育・一般教育的部分）も含んで用いられている。本稿ではこれを「基礎教育」と訳す。

## （一）新教育課程への改訂の実施

### （1）2004年 UFD による改訂基本方針決定

ノルウェーの初等中等学校の新教育課程は、義務制学校の「キリスト教、宗教及び人生観科目」 faget kristendoms-, religions- og livssynskunnskap（略称 KRL）は2005/06学年度から実施され、一般の初等及び中等教育課程改訂は、UFD が2004年11月10日に発した通知「知識向上教育課程」<sup>4)</sup>によって2006/07学年度から実施された。

教育課程改訂は UFD の決定権、2006年1月1日省庁再編以後は Kunnskapsdepartementet (KD) の決定権に属するが、UFD は2004年6月に教育管理庁 Utdanningsdirektoratet（略称 Udir）を設置し、最終決定権は留保しつつ、初等中等教育に関する権限の概要を同庁に委任した。この権限委任は省庁再編後も維持されている。<sup>5)</sup> この委任によって、今回の教育課程改訂には、Udir が前端的かつ概ね全面的に当たってきた。それもあって初等中等教育の現行及び新教育課程の資料は、Udir の URL : <http://www.udir.no/> に提示されている。

### （2）知識向上教育課程への改訂状況

2007/08学年度に実施されている知識向上教育課程の「基礎教育の科目及び時間配分」は、KD の「2007年8月7日改訂通知 F-012-06付記1」として、31の時間配分表と説明文との全49頁で示されている。<sup>6)</sup>

## （二）新教育要領の構成（概要）

さて、「知識向上教育課程」は、2007年12月16日現在、Udir の URL に Kunnskapsløftet - fag og læreplaner の題目で先ずその概要が示されている。<sup>7)</sup> 次にその全文を訳す。なお便宜上、括弧番号、○番号等を付し、改行は適宜変更した。また原文でその語にハイパーリンク（以下単に「リンク」という）が付されていてその記事に跳びうる訳語の後には原語を示し ~~~~~ を付した。但し、「頁始めへ」 Gå til toppen av siden は略した。

知識向上教育課程要領（概要。2007. 12. 16. Udir トップ頁掲載・翻訳）

基礎教育における知識向上のための教育課程要領は、学校及び企業（職業教育実習企

業)における教育の基本及び枠組みを形成する。

教育課程要領は、教育法による効力のある行政法規であり基礎教育を拘束する。<sup>8)</sup>

新要領は、次によって構成される。

- (1) 一般篇 Generell del
- (2) 教育諸原則 Prinsipper for opplæringen
- (3) 諸科目教育課程 Læreplaner for fag
- (4) 知識向上教育課程要領一サーミ篇 Læreplanverket for Kunnskapsløftet - Samisk
- (5) 科目及び時間配分 Fag-og timefordelingen

### (1) 一般篇

一般篇 Generell del は、①1994年後期中等教育、97年義務制基礎学校教育の両改革に際して理念として定められた「基礎学校、後期中等教育、成人教育のため教育課程 一般篇」<sup>9)</sup>を維持・継承するものである。②教育法<sup>10)</sup>の目的条項 formålsparagrafen i opplæringslova の § 1-2 「教育の目的」(2000年6月30日改正)を深めるものである。③各科目・教科・専門分野(原語は *fag*。以下適宜、「科目」、「専門分野」等と訳す)課程は一体としてこの基本的な約束の中で展開される。④教育課程は、意味を求める人間、創造的人間、働く人間、一般教養を身につけた人間、協働的人間、環境を認識する人間という統合的人間をより良く全体的に発達させなければならない。<sup>11)</sup>

### (2) 教育諸原則

UFD は教育諸原則 Prinsipper for opplæringen を定めた。<sup>12)</sup>この諸原則は教育揭示(文書)を含んでおり、かつ、基礎学校と後期中等教育の全レベルの教育を義務づける。

教育諸原則は、①教育課程要領を含め、教育法、同法施行法規の定めを纏め、また豊かにし、かつ一連の諸規定に照らして見なければならず、②法律、施行法規と調和し、人権及び適合的地域及び個人の条件及び必要と結びついた教育に対する学校所有者の責任に寄与し、③(教育の)質の一層の発展及び学校と教育企業の組織的評価の基礎を成し、④地方の教育課程業務の自然な部分として含まれる。

教育諸原則は、また、生徒及び見習い実習生が社会的資格、教育戦略及び内的動機を発展させる教育を受けるための学校及び教育企業の責任を明らかにする。

詳細情報：

社会的コンピタンス Sosial kompetanse

適合教育及び機会の平等 Tilpasset opplæring og likeverdige muligheter

教員・指導員の能力・役割 Læreres og instruktørers kompetanse og rolle

家庭との協働 Samarbeid med hjemmet

### (3) 諸科目の教育課程

知識向上のために定められたすべての教育課程 (LK 06) は、教育管理庁の教育課程、コード及び提供構造一取手 (grip) læreplaner, kodeverk og tilbudsstruktur - grep の新データベースにおいて提供されている。

ここが取手 Her finner du grep

諸科目の教育課程は、①目標、②主要領域 hovedområder、③時間数、④基礎的スキル grunnleggende ferdigheter、⑤コンピタンス目標、⑥成績評価、で構成されている。

科目課程の構成に関する詳細 Les mer om oppbygningen av læreplaner for fag.

科目課程の開発基本文書に関する詳細 Les mer i grunnlagsdokumentene for utvikling av læreplaner.

基礎学校及び後期中等教育に共通する科目に対しては全教育過程に有効な一つの教育課程が開発されている。これは教育における関連、全体性及び進歩の確保に役立つであろう。

2006年に始まる学年については、次に関して、新教育課程が定められている。

①基礎学校の全科目、②後期中等教育の共通科目、③学問学習専門諸学科の学科専門④職業学科課程) の後期中等教育第1段階 Trinn 1 (Vg 1 = 後期中等教育課程 1)。

職業学科課程の Vg 2 及び Vg 3 の教育課程は開発中であり、計画によって各々2007年1月及び2008年1月に定められるであろう。

### (4) 知識向上教育課程要領サーミ篇 (LK06-S) Læreplanverket for Kunnskapsløftet - Samisk (LK06-S)

知識向上教育課程と合わせて、教育管理庁はサーミ議会 Sametinget<sup>13)</sup> と協働して、それと並行かつ同等な基礎学校及び基礎教育の共通科目の教育課程を開発した。教育法 § 6-4 及び ILO 条約第169号「独立国における原住民及び種族民に関する条約」<sup>14)</sup> 第27条及び第29条が LK06サーミ篇の全ての教育課程の開発の基礎にある。

サーミ議会は、教育法 § 6-4 第2項に従ってサーミ語教科の教育課程を起草し決定した。これらのサーミ語の言語諸教科教育課程は、サーミの2006-2007学年度の教育を受ける生徒に実施される。サーミ教育を受ける生徒のための基礎学校及び共通科目の並行かつ同等な教育課程も2006-2007学年度から実施される。加えて、並行・同等な後期水準の共通科目課程が開発中であり2006年秋の公聴に送られるであろう。VG 2 のデザイン及びサーミ伝統工芸並びに VG 2 の畜産の教育課程はサーミ議会の管理下で開発されており、2006年に始まる学年のヒアリングに送られる。これらの教育課程は、サーミ議会で定められ、教育法 § 6-4 第2項にしたがって2007-2008学年度から実施される。

LK06-S のために決定された教育課程のリンクは、ここ LK06-S。

新教育課程の仕事のためのさらに詳細は、教育管理庁の [skolenettet.no/lp](http://skolenettet.no/lp)  
サーミ教育ネット [www.oahpponeahтта.no](http://www.oahpponeahтта.no)  
又はサーミ議会のネット [www.samediggi.no](http://www.samediggi.no)

### (5) 科目及び時間配分

基礎学校の科目及び時間配分は、全小学校段階（第1－7段階 trinn）がまとめて、及び、全中学校段階（第8－10段階）がまとめて定められている。各々の学校所有者（コムーネ kommune 及び県 fylkeskommune）は各段階の時間を配分する責任を有する。後期中等教育の科目及び時間配分は、各段階毎に定められている。サーミ教育、フィンランド語が第2言語の生徒、手話が第1言語の生徒のための特別教育課程が定められている。各々の生徒のための適合教育の機会の要求に対しては、コムーネ及び県は各々の科目において定められた時間数の25%以内で再調整することが出来る。このような再調整は、それが当該生徒のための科目全体の目標達成に至らせる基礎であると予想されるときになされうる。諸科目の教育課程の目標は放棄出来ず、まさに時間について再調整される。再調整は、家庭との協働でされなければならない、生徒又は職業実習生各個人及び保護者の合意を必要とする。特別の分離を必要とする生徒は、特別教育に関する専門家の評価と個別の措置によってこの再調整を受けることが出来る。特別教育に関する基準と手続は、教育課程の目標からの逸脱をする意味がある場合には従わなければならない。

科目及び時間配分は、通知 F-12-2006B [Fag- og timefordelingen er gjengitt i rundskriv F-12-2006B](#) に示されている（外部のリンク）。

（以上、翻訳）

## （三）知識向上教育課程の科目と構成の概要

教育管理庁 Udir の URL に「知識向上 科目と教育課程」*Kunnskapsløftet - fag og læreplaner* が示されている。<sup>15)</sup>これにより、2007年8月15日現在、諸科目と構造、諸科目の時間配分等、これまでに定められた新教育課程の科目と教育課程の概要を知ることが出来る。そのため、細部は暫く措いて、以下にこの頁のほぼ全文の翻訳を示す。

その際、この頁の記述の殆どにリンクが貼られているが、煩雑なのでその提示は省略する。また、改行は適宜度外視し、元頁の構成理解のため（ ）番号及び○番号を付す。

### 知識向上 科目（専門）と教育課程（2007.8.15。概ね全訳）

#### （1）基礎学校科目 Grunnskolefag

①KRL、②技術、③音楽、④食と健康、⑤ノルウェー語深化科目 *fordypning i norsk*、⑥

英語深化科目、⑥生徒会活動 elevrådsarbeid。

(2) 共通科目（基礎学校及び後期中等教育）

Gjennomgående fag (grunnskole og videregående)

①ノルウェー語、②理科、③英語、④外国語、⑤社会科、⑥体育、⑦第2外国語としてのフィンランド語、⑦数学。

(3) 教育課程を横断的に På tvers av læreplanene

①段階毎のコンピテンス目標 Kompetansemål per trinn ②基礎的スキル Grunnleggende ferdigheter

(4) 聾及び強度難聴者の知識向上教育課程 Kunnskapsløftet for døve og sterkt tunghørte

(5) 知識向上教育課程サーミ篇 Kunnskapsløftet Samisk

(6) 後期中等教育 Videregående opplæring

- ①進学を主とする学科 Studieforberevende utdanningsprogram<sup>16)</sup>  
学問学習専門 studiespesialisering、体育 Idrettsfag、音楽・舞踊・演劇 Musikk, dans og drama
- ②職業教育を主とする学科 Yrkesfaglige utdanningsprogram  
メディア及びコミュニケーション Medier og kommunikasjon  
サービス及び流通 Service og samferdsel  
建設・施設設備技術 Bygg- og anleggsteknikk  
技術及び工業生産 Teknikk og industriell produksjon  
自然利用 Naturbruk  
デザイン及び手工 Design og håndverk  
レストラン・食糧 Restaurant-og matfag  
保健・福祉 Helse-og sosialfag  
電気 Elektrofag
- ③共通学習準備科目課程 Fellesfag studieforberevende læreplaner  
歴史 Historie、宗教及び倫理 Religion og etikk、地理 Geografi

#### (四) 知識向上教育課程の科目と時間配分

教育研究省 KD は2007年8月7日、通知 F-012-06「知識向上教育課程の導入 科目と時間配分、構造等について」*Innføring av Kunnskapsløftet Om fag- og timefordelingen i grunnopplæringen, tilbudsstruktur m. m.*<sup>17)</sup> の「付記1 基礎教育の科目と時間配分 知識向上教育課程」<sup>18)</sup> を変更した。2007.8.7. 変更通知 F-012-06の「付記1」は、科目・時間配分等に関する31の表を含んだ49頁の文書である。

同07年8月7日変更通知は、冒頭で基礎学校及び後期中等教育の「時間数」*timetallet* は「時計時間」*klokketimer* であり、45分の授業単位時間から時計時間への時数の換算においても時計時間数は変更しないと述べている。

##### (1) 基礎学校の科目と時間配分

これに関して、通知 F-012-06の2007.8.7改訂付記1の表1～表4の4つの表を示す。その際、表2～表4については、通例と異なる科目時間配分及び総時数の行部分だけを示す。

**表1 通例の基礎学校科目授業時数配分**

(訳注：時数単位は 60 分/週×1年間)

Tabell 1: Ordinær fag- og timefordeling i grunnskolen

科目	第 1-7 学年	第 8-10 学年	基礎学校総計
キリスト教、宗教及び人生観科 KRL	427	157	584
ノルウェー語 Norsk	1296	398	1694
数学 Mtematikk	812	313	1125
理科 Natur	328	256	584
英語 Engelask	328	227	555
外国語/言語深化科目 Fremmedspråk/språklig forfypning	0	227	227
社会科 Samfunnsfag	385	256	641
技術 Kunst og håndverk	477	150	627
音楽 Musikk	285	85	370
食と健康 Mat og helse	114	85	199
体育 Kroppsøving	478	228	706
生徒会活動 Eleverådsarbeid	0	71	71
選択・学科課程科目 Programfag til valg	0	113	113
合計 Sam	4963	2566	7496



**表2 サミー教育を受ける生徒の基礎学校の科目と時間配分（抄）**（通例と異なる科目部分と総系時間数のみ）

Tabell 2 : Fag- og timefordeling i grunnskolen for elever som har samisk opplæring

科目	代替 1 外国語/言語深化科目なし			代替 2 外国語/言語深化科目あり		
	第 1-7 学年	第 8-10 学年	総計	第 1-7 学年	第 8-10 学年	総計
第 1 言語 サーミ語／ノルウェー語	916	335	1251	916	278	1194
第 2 言語 サーミ語／ノルウェー語	570	279	849	570	222	792
外国語/言語深化科目	0	0	0	0	227	227
Duodji/duodje/duedtie	477	161	638	477	161	638
合計 Sam	5120	2566	7686	5120	2679	7749

**表3 第2言語がフィンランド語である生徒の基礎学校の科目と時間配分（抄）**（通例と異なる部分等のみ）

Tabell 3 : Fag- og timefordeling i grunnskolen for elever med finsk som andrespråk

科目	第 1-7 学年	第 8-10 学年	基礎学校総計
ノルウェー語	846	258	1104
第 2 言語としてのフィンランド語	564	172	736
体育 Kroppsøving	478	217	695
合計 Sam	5044	2566	7610

**表4 第1言語が手話の生徒のための基礎学校の科目と時間配分（抄）**

（通例と異なる部分等のみ）

Tabell 4 : Fag- og timefordeling i grunnskolen for elever som har tegnspråk

科目	第 1-7 学年	第 8-10 学年	基礎学校総計
ノルウェー語及びノルウェー語手話	2059	678	2737
合計 Sam	5693	2846	8539

念のため述べると、原表 2～4 の KRL、数学、理科、英語、社会科、音楽、食と健康、選択・学科課程科目の諸科目は、いずれも通例の基礎学校の科目・時間配分と同じである。

また、通例と異なる内容は次の通りである。

原表 2 では、「ノルウェー語」に代えて「第 1 言語 ノルウェー語/サーミ語」及び「第 2 外国語 ノルウェー語/サーミ語（サーミ語 2 又は 3）」、「技術」に代えて *Duodji/duodje/duedtie* が設けられている。「外国語/言語深化」科目時間数も通例と異なる。

原表 3 では、「ノルウェー語」及び「体育」の時間数が少なく、「第 2 言語としてのフィンランド語」科目が設けられている。

原表 4 では、「ノルウェー語」に代えて「ノルウェー語及びノルウェー語手話」科目が設けられている。

## （2）後期中等教育課程の構成

通知 F-012-06 は後期中等教育科目と時間配分も示している。その枠組を理解する前提として、同通知の付記 2 「知識向上教育課程の提供構造 2007 年 5 月 14 日（翌月 6 日修正）」

# 別表 2007年5月14日知識向上後期中等教育課程の提供構造 (2007年6月6日改正)・抄

Tilbudsstrukturen i Kunnskapsløftet pr. 14.05.2007 (korr.06.06.2007) side1., side2.  
資料源 : [http://www.regjeringen.no/upload/KD/Rundskriv/2006/Rundskriv\\_F\\_012\\_06\\_Tilbudsstruktur\\_pr\\_14052007\\_korrigert\\_06062007.pdf](http://www.regjeringen.no/upload/KD/Rundskriv/2006/Rundskriv_F_012_06_Tilbudsstruktur_pr_14052007_korrigert_06062007.pdf) (2007.12.18)

## 専門(専門教育領域)分類の説明 Forklaring på fargekoding

学科 Utdanningsprogram

学校における後期中等教育 Videregående opplæring i skole Videregående opplæring i bedrift

企業における後期中等教育 Videregående opplæring i bedrift

進学資格 Studiekompetanse

専門又は職人資格を伴う若しくはそれ以外の職業資格 Yrkeskompetanse med eller uten fag- eller svennebrev

## 進学を主とする学科 Studieforberedende utdanningsprogram

### 学習専門学科 Utdanningsprogram for studiespesialisering

専門分野(学科)	
高校第1段階 Vg1	高校第2段階 Vg2
第1年	第2学年
学習専門学科 (造形科目を伴い、又は伴わない)	造形学科
	理数学科
	社会及び経済学科
	言語学科
	第3学年
	高校第3段階 Vg3
	造形学科
	理数学科
	社会及び経済学科
	言語学科

達成目標

一般進学資格  
一般進学資格  
一般進学資格  
一般進学資格

Formgibningsfag  
Realfag  
Samfunningsfag og økonomi  
Språkfag

### 体育学科 Utdanningsprogram for idrettsfag

専門分野(学科)	
高校第1段階 Vg1	高校第2段階 Vg2
第1年	第2学年
体育学科	体育学科
	第3学年
	高校第3段階 Vg3
	体育学科

達成目標

一般進学資格

### 音楽、舞踊及び演劇学科 Utdanningsprogram for musikk, dans og drama

専門分野(学科)	
高校第1段階 Vg1	高校第2段階 Vg2
第1年	第2学年
音楽、舞踊、演劇	舞踊 dans
	演劇 drama
	音楽 musikk
	第3学年
	高校第3段階 Vg3
	舞踊 dans
	演劇 drama
	音楽 musikk

達成目標

一般進学資格  
一般進学資格  
一般進学資格

(別表続き)

## 職業教育を主とする学科 Yrkesfaglige utdanningsprogram

## 建築及び施設設備技術学科 Utdanningsprogram for bygg- og anleggsteknikk

専門分野(学科)

後期中等第2段階(Vg2)

第2学年

施設設備技術 Anleggsteknikk

後期中等第3段階(Vg3)又は企業内見習い実習

第4学年

施設設備機械操作士専門分野 Anleggsmaskinsførerfaget

アスファルト専門分野 Asfaltfaget

道路建設士専門分野 Banemontørfaget

山岳作業専門分野 Fjellarbeidsfaget

小道路及び施設設備専門分野 Vei- og anleggsfaget

コンクリート専門分野 Betongfaget

左官専門分野 Murerfaget

耐暴風雪建築専門分野 Stillasbyggerfaget

大工専門分野 Tønerfaget

車門分野 Rørleggefaget

屋根天井専門分野 Taktekkfaget

換気及びブリーミ設置専門分野 Ventilasjon- og blikkenslager

工業塗装専門分野 Industrielmalerfaget

左官専門分野 Malerfaget

清掃作業士専門分野 Renholdsoverrørfaget

合板製作専門分野 Limtreproduksjonsfaget

材木専門分野 Trelastfaget

木材及び建築修理専門分野 Trevar- og bygninnsretningsfaget

達成目標職業資格

専門資格	施設設備機械操作士
専門資格	アスファルト作業士
専門資格	道路建設士
専門資格	山岳作業士
専門資格	小道路及び施設設備作業士
専門資格	コンクリート作業士
職人資格	左官
専門資格	耐暴風雪建築作業士
職人資格	大工
職人資格	配管職人
専門資格	屋根天井作業士
職人資格	ブリーミ職人
専門資格	工業塗装士
職人資格	左官
専門資格	清掃作業士
専門資格	合板製作士
専門資格	材木取扱い専門士
職人資格	樹木剪断士

一般進学資格

Generell studiekompetanse

専門分野(学科)	専門分野(学科)
後期中等第2段階(Vg2)	後期中等第3段階(Vg3)又は企業内見習い実習
第2学年	第4学年
施設設備技術 Anleggsteknikk	施設設備機械操作士専門分野 Anleggsmaskinsførerfaget
アスファルト専門分野 Asfaltfaget	アスファルト作業士
道路建設士専門分野 Banemontørfaget	道路建設士
山岳作業専門分野 Fjellarbeidsfaget	山岳作業士
小道路及び施設設備専門分野 Vei- og anleggsfaget	小道路及び施設設備作業士
コンクリート専門分野 Betongfaget	コンクリート作業士
左官専門分野 Murerfaget	左官
耐暴風雪建築専門分野 Stillasbyggerfaget	耐暴風雪建築作業士
大工専門分野 Tønerfaget	大工
車門分野 Rørleggefaget	配管職人
屋根天井専門分野 Taktekkfaget	屋根天井作業士
換気及びブリーミ設置専門分野 Ventilasjon- og blikkenslager	ブリーミ職人
工業塗装専門分野 Industrielmalerfaget	工業塗装士
左官専門分野 Malerfaget	左官
清掃作業士専門分野 Renholdsoverrørfaget	清掃作業士
合板製作専門分野 Limtreproduksjonsfaget	合板製作士
材木専門分野 Trelastfaget	材木取扱い専門士
木材及び建築修理専門分野 Trevar- og bygninnsretningsfaget	樹木剪断士

Vg2 水準の特異コース以外の全専門分野

Alle programråder unntatt

særlop på Vg2-nivået

特異コース Særlop

専門分野(学科)	専門分野(学科)
後期中等第2段階(Vg2)	後期中等第3段階(Vg3)又は企業内見習い実習
第2学年	第4学年
施設設備技術 Anleggsteknikk	施設設備機械操作士専門分野 Anleggsmaskinsførerfaget
アスファルト専門分野 Asfaltfaget	アスファルト作業士
道路建設士専門分野 Banemontørfaget	道路建設士
山岳作業専門分野 Fjellarbeidsfaget	山岳作業士
小道路及び施設設備専門分野 Vei- og anleggsfaget	小道路及び施設設備作業士
コンクリート専門分野 Betongfaget	コンクリート作業士
左官専門分野 Murerfaget	左官
耐暴風雪建築専門分野 Stillasbyggerfaget	耐暴風雪建築作業士
大工専門分野 Tønerfaget	大工
車門分野 Rørleggefaget	配管職人
屋根天井専門分野 Taktekkfaget	屋根天井作業士
換気及びブリーミ設置専門分野 Ventilasjon- og blikkenslager	ブリーミ職人
工業塗装専門分野 Industrielmalerfaget	工業塗装士
左官専門分野 Malerfaget	左官
清掃作業士専門分野 Renholdsoverrørfaget	清掃作業士
合板製作専門分野 Limtreproduksjonsfaget	合板製作士
材木専門分野 Trelastfaget	材木取扱い専門士
木材及び建築修理専門分野 Trevar- og bygninnsretningsfaget	樹木剪断士

職人資格	フランシ職人
専門資格	ガラス専門
専門資格	電気絶縁士
専門資格	石工専門士

Tilbudsstrukturen i Kunnskapsløftet pr. 14. 05. 2007 (korr. 06. 06. 2007) 全13頁の表のうち最初の2頁を別表に示した。<sup>20)</sup>職業教育を主とする学科は、別表に示した建築及び施設設備技術学科を始め9学科があるが、教育課程の構造理解のためには、職業学科では同学科の例を示すだけでこと足りると考えるからである。

この付記の原表全体からは新後期中等教育課程提供の構造は次の通りに理解し得る。

①後期中等教育課程の構造

- (A) 進学(を主とする)学科
- (B) 職業教育(を主とする)学科

②(A) 進学を主とする学科の種類

- (I) 学問学習専門学科
- (II) 体育学科
- (III) 音楽舞踊演劇学科

③(A) の (I) の学問学習専門学科の種類

- i. 造形学科
- ii. 理数学科
- iii. 社会経済学科
- iv. 言語学科

④(A) の (II)、(III) はそれ以上には、専門分野(または「小学科」) Programområder としては細分化していない。

⑤(B) の職業教育を主とする学科については、本稿(三)の(6)の②に示した9つの学科が示されているが、ここではそれは省略する。別表ではその内の建築・施設設備技術学科部分だけを抜き書きして、職業教育を主とする学科の教育課程がどのような専門分野 programområder に細分化されて提供されているかを示す一例とした。

(3) 後期中等教育課程の科目と時間配分

「表5 学問学習専門学科(理数科 Realfag、言語及び社会・経済の課程領域)の科目と時間」は、概ね日本で言う普通科、すなわち主として高等教育機関に進学する課程で、かつ体育学科にも音楽・舞踊・演劇学科にも特化しない教育課程の科目・時間配分表である。

造形学科の科目時間配分は他の3つの学問学習専門学科と科目・時間配分がやや異なり、同表第2、6、11、16欄に特別に示されている。

一般進学課程の学科専門科目に関しては4学科中、表6に理数学科専門科目、表7に言語学科専門科目とその時間配分を示す。

なお、表8 (Tabell 8)、表10、表12は社会経済、造形、体育の各学科専門科目と時間

**森林環境部及び、森林廳、森林工務、分區調査と田舎の森林門牌調査報告書**

欄番号	時間数																	
	Vg1			Vg2			Vg3			3年間総計								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	通常	造形 Vgl	サー ミ	聾 / 難聴	通常	造形 Vgl	サー ミ	聾 / 難聴	通常	基礎 学校の 話の 不足	造形 学科 Vgl	サー ミ	聾 / 難聴	通常	基礎 学校の 話の 不足	造形 Vgl	サー ミ	聾 / 難聴
宗教・倫理									84	84	84	84	84	84	84	84	84	84
ノルウェー語	113	113			112	112			168	168	168			393	393	393		
第1言語 ノルウェー語/ノルウェー語			103				103					103					309	
第2言語 ノルウェー語/サーミ語/フィンランド語			103				103					103					309	
聾者/強度難聴者にためのノルウェー語				113				112					168					393
ノルウェー語手話				75				75					75					225
数学1	140	140	140	140	84	84	84	84						224	224	224	224	224
自然科学	140	140	140	140										140	140	140	140	140
英語	140	140	140	140										140	140	140	140	140
(第2) 外国語1	113	113			112	112				140				225	365	225		
社会科学	84		84	84		84								84	84	84	84	84
地理	56		56	56		56								56	56	56	56	56
歴史					56	56	56	56	113	113	113	113	113	169	169	169	169	169
体育	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	168	168	168	168	168
共通科目 小計	842	702	822	804	420	560	402	383	421	561	421	459	496	1683	1823	1683	1683	1683
固有の課程領域からの学科課程科目※					280	280	280	280	280	280	280	280	280	560	560	560	560	560
Vglの造形科目からの共通学科課程科目		140														140		
学習専門学科課程からの学科課程科目		140			140												280	280
合計時間	842	982	822	804	840	840	822	803	841	841	841	879	916	2523	2523	2663	2523	2523

原表付記：文書33.1末におけるこれらの科目についての記述を見ること

資料源：rundskriv F0112-06, Rev.07.08.2007, Tbell 5, <http://www.regjeringen.no/nb/dep/kd/dok/rundskriv/2006/Rundskriv-F-12-2006-Innforing-av->

Kunnska.html?id=109638 (2007.8.24)

歌注(※印)：上記 rundskriv は、9 頁の知識向上教育課程概念対照表で *programråde* (本稿訳「専門教科領域」) を旧 *kurs* に代わる概念としている。*programråde* は、日本で言う「学科」に近い、専門・職業分野別の教育課程領域を指している。

これに対して *kurs* は、「コース」*course* の意味も有するが、今までのノルウェーの後期中等教育では、「学年（段階）」*class* に近い意味で使われてきた。紛らわしいところである。

**表6 理数科の専門科目**

Tabell 6: Programfag i programområde for realfag

専門教科 Programfag	専門単位科目 Programfagenheter	時間
数学	Timer	
	数学 X Matematikk X	84
	数学 R1 Matematikk R1	140
	数学 R2 Matematikk R2 (数学 R1 に基づく)	140
	数学 S1 Matematikk S1	140
	数学 S1 Matematikk S1 (数学 R1 に基づく)	140
化学		
	化学 1	140
	化学 2 (化学 1 に基づく)	140
物理学		
	物理学 1	140
	物理学 2 (物理学 1 に基づく)	140
生物学		
	生物学 1	140
	生物学 2 (生物学 1 に基づく)	140
情報技術		
	情報技術 1	140
	情報技術 2	140
地学		
	地学 X	84
	地学 1	140
	地学 2	140
技術及び研究方法学		
	技術及び研究方法学 X	84
	技術及び研究方法学 1	140
	技術及び研究方法学 2	140

**表7 言語科の専門科目**

Tabell 7: Programfag i programområde for språkfag

専門教科 Programfag	専門単位科目 Programfagenheter	時間
英語 Engelsk	Timer	
	国際英語 Internasjonal engelsk	140
	社会科的英語 Smfunnsfaglig engelsk (国際英語に基づく)	140
	英語による文学及び文化 (国際英語に基づく)	140
外国語 (訳注: 英語以外の外国語)		
	外国語 I	140
	外国語 II (外国語 I に基づく)	140
	外国語 III (外国語 II に基づく)	140
古典語及び古典文化 Antikkens språk og kultur		
	古典文化	140
	ラテン語 1	140
	ラテン語 2 (ラテン語 1 に基づく)	140
	ギリシャ語 1	140
	ギリシャ語 2 (ギリシャ語 1 に基づく)	140
コミュニケーション及び文化		
	コミュニケーション及び文化 1	140
	コミュニケーション及び文化 2 (1 に基づく)	140
	コミュニケーション及び文化 3 (1 に基づく)	140
観光 (2008-2009 学年度から)		
	観光 1	140
	観光 2	140

配分、表9、表11は造形学科、体育学科の（3年間の）科目及び時間配分を示しており、表13は音楽、舞踊、演劇に共通の専門科目、表14、15、16は音楽、舞踊、演劇の各専門領域の専門科目を示しているが、省略する。

表17は職業教育課程の諸学科の第1、2段階の科目・時間配分、表18aは「職業学科第1段階 Vg 1 に共通の科目」である。

原表18b～表18jには9つの職業学科第2段階の各職業学科別の専門科目を示しているが、うち一例として建築関連の表18bを示す。

従来、ノルウェーには一旦、職業課程に進んでも、途中学年から進学課程へ進路変更する制度があり、その場合、時間的には1年間余計に就学することが権利として認められてきた。「表19 職業学科に対する一般進学資格への準備のための科目と時間配分」は、職業学科に進んだ学生が第3段階（Vg 3）から一般進学資格取得をするのに必要な科目と時間配分を示すものである。

原表20には「自然利用科及びメディア・コミュニケーション科の中で進学するための科目及び時間配分」も示されているが略す。

なお、各科目等の課程内容は、教育管理庁の URL：<http://www.udir.no/> に示されている。

## 結びに代えて

新教育課程は、従来の教育課程と対照すると、次のような特徴を備えている。

### (1) 言語学習の強化

①従来から英語及びノルウェー語の深化 *fordypning* 科目は選択科目としては在ったが、今回は、基礎学校教科の必修科目として位置づけられた（前記（三）の（1）、（2））。

②英語以外に外国語科目、すなわち日本的に言えば第2外国語科目が設けられた。この外国語科目は、基礎学校及び後期中等教育の共通科目である。その一部は中学校から履修できるようにされる（（一）の（2）に訳出の通知 F-12-06の記述。）。

以上には、国会への UFD 報告書 *St. meld. nr. 30 2003-2004*以降、小学校から高校までの教育を一貫して「基礎教育」と捉え、基礎的資質・能力の向上を図る今次改訂のねらいが見られる。

### (2) コンピテンス達成目標の重視

《Kunnskapsløftet-fag og læreplaner》の中の《Kompetansemål per trinn》で段階 *trinn* すなわち単学年又は複数学年の纏まり毎にコンピテンス目標を定めているのもそれに応じている。

### (3) 基礎的スキルの重視

《Kunnskapsløftet-fag og læreplaner》の《Grunnleggende ferdigheter for grunnskolen》(基礎学校における基礎的スキル)で、「自分自身を口頭で表現する」「自分自身を文書で表現する」「読む」「計算する」「デジタル資材を使う」の5つができることを目標として示していることも観点・表現を変えた同じねらいであろう。

### (4) 聾及び強度難聴者並びにサーミのための教育課程の重視

これらを「知識向上 科目と教育課程」のトップ頁に掲載したこと自体が、ノルウェー政府の今次改訂におけるこれらの人々の教育の重視を表していると思われる。

今後の調査研究課題は、新・旧の各科目等教育課程、各学科教育課程等に立ち入って比較・検討することであり、それには幾つかの代表的と思われる科目、学科等を取り上げて調査研究することが有効であると考えている。現地訪問による見聞の可能性も追求したい。

**表 17 職業学科第1段階及び第2段階の科目及び時間配分**

**Tabell 17 Fag- og timefordeling på Vg1 og Vg2 i yrkesfaglige utdanningsprogram**

欄番号	時間の扱い											
	Vg1				Vg2				2年間合計			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	通常	学問 学習 Vg1	サー ミ	聾 者 強 度 難 聴	通常	学問 学習 Vg1	サー ミ	聾 者 強 度 難 聴	通常	学問 学習 Vg1	サー ミ	聾 者 強 度 難 聴
ノルウェー語	56	113			56				112	113		
第1言語：サミ語/ノルウェー語			45				45				90	
第2言語：ノルウェー語/サミ語/ フィン語1			45				45				90	
聾者・強度難聴者のための手話				56				56				112
ノルウェー語手話1				56				56				112
数学1	84	140	84	84					84	140	84	84
自然科学	56	140	56	56					56	140	56	56
英語	84	140	84	84	56		56	56	140	140	140	140
外国語		113								113		
社会科		84			84		84	84	84	84	84	84
地理		56								56		
体育	56	56	56	56	56	56	56	56	112	112	112	112
共通科目小計	336	842	370	392	252	56	286	308	588	898	656	700
固有の専門領域に共通の専門科目	477		477	477	477	477	477	477	954	477	954	954
深化に向かうプロジェクト	168		140	140	253	253	225	197	421	253	365	309
進学又は職業教育中の専門科目						196				196		
総計時間の扱い	981	842	987	987	982	982	988	982	1963	1824	1975	1963



**表 18a 職業学科の第1段階専門科目****Tabell 18a Programfag Vg1 i yrkesfaglige utdanningsprogram**

学科 Utdanningsprogram	専門科目 Programfag	時間
<b>建築及び施設設備技術 Bygg- og anleggsteknikk</b>		
	生産 Produksjon	337
	製図及び交易学習 Tegning og bransjelære	140
<b>デザイン及び手工 Design og handverk</b>		
	生産	337
	品質及び記録 Kvalitet og dokumentasjon	140
<b>電気 Elektrofag</b>		
	データシステム及び電気システム Data- og elektronikkssystemer	197
	エネルギー・システム Elenergisystemer	140
	オートメーション・システム Automatiseringssystemer	140
<b>保健及び福祉 Helse- og sosialfag</b>		
	健康助長作業 Helsefremmende arbeid	197
	コミュニケーション及びチームワーク Kommunikasjon og samhandling	140
	職業実践 Yrkesutøvelse	140
<b>メディア及びコミュニケーション Medier og kommunikasjon</b>		
	メディアコミュニケーション Mediekommunikasjon	159
	メディアデザイン及びメディア表現 Mediedesign og medieuttrykk	159
	メディア制作 Medieproduksjon	159
<b>自然利用 Naturbruk</b>		
	自然に基づく生産 Naturbasert produksjon	337
	自然に基づく科中道 Naturbasert aktivite	140
<b>レストラン及び食糧 Restaurant- og matfag</b>		
	生鮮材料及び生産 Råstoff og produksjon	177
	価格維持及びライフスタイル Kosthold og livsstil	150
<b>サービス及び流通 Service og samferdsel</b>		
	計画設定 Planlegging	169
	作業及び追跡調査 Drift og oppfølging	168
	コミュニケーション及びサービス Kommunikasjon og service	140
<b>技術及び工業生産 Teknikk og industriell produksjon</b>		
	生産 Produksjon	197
	技術的サービス Tekniske tjenester	140
	記録及び品質 Dokumentasjon og kvalitet	140

**表 18b 建築及び施設設備技術Vg2の専門科目****Tabell 18b Programfag Vg2 for bygg- og anleggsteknikk**

専門分野 Programområde	専門科目 Programfag	時間
<b>施設設備技術 Anleggsteknikk</b>		
	生産 Produksjon	337
	交易学習 Bransjelære	140
<b>建築技術 Byggteknikk</b>		
	生産 Produksjon	337
	交易学習	140
<b>気候技術及びエネルギー技術及び環境技術 Klima-, energi- og miljøteknikk</b>		
	生産	337
	交易学習	140
<b>塗装技術 Overflatteknikk</b>		
	生産	337
	交易学習	140
<b>木材技術 Treteknikk</b>		
	生産	337
	交易学習	140

**表19 職業学科のための一般進学資格取得への  
Vg3追加における科目と時間配分**

**tabell 19 Fag-og timefordeling på Vg3 påbygging til generell studiekompetanse for yrkesfaglige utdanningsprogram**

欄番号	時 間 数							
	Vg3				3年間の合計			
	1 通常	2 学問学 習専門 学科第 1段階	3 サ ー ミ	4 聾 / 難聴	5 通常	6 学問学 習専門 学科第 1段階	7 サ ー ミ	8 聾 / 難聴
ノルウェー語	281	280			393	393		
第1言語 サーミ語/ノルウェー語 1			219				309	
第2言語 ノルウェー語/サーミ語/フィン ランド語 1			219				309	
聾者/強度難聴者のためのノルウェー語 1				281				393
ノルウェー語手話 1				113				225
数学 1	140	84	140	140	224	224	224	224
自然科学	84		84	84	140	140	140	140
英語					140	140	140	140
外国語						113		
社会科学					84	84	84	84
地理						56		
歴史	140	140	113	140	140	140	113	140
体育	56	56	56	56	168	168	168	168
<b>共通科目 合計</b>	<b>701</b>	<b>560</b>	<b>831</b>	<b>814</b>	<b>1289</b>	<b>1458</b>	<b>1487</b>	<b>1514</b>
学科 (専門領域) 固有の専門科目					954	477	954	954
深化(強化)教育内容 Projeckt til fordyping				27	421	253	365	336
学問学習専門学科の専門科目(*)	140	140			140	140		
進学学科又は職業学科の専門科目(#)		140				336		
<b>合計時間</b>	<b>841</b>	<b>840</b>	<b>831</b>	<b>841</b>	<b>2804</b>	<b>2664</b>	<b>2806</b>	<b>2804</b>

原表付記：3.3.1 末のこれらの科目についてのより詳しい記述を見ること。

資料源：rundskriv F0112-06, Rev.07.08.2007, Tabell 19

訳注：(\*) Programfag fra studiespesialiserende utdanningsprogram

(#) Progranfag fra studieforbr. el. yrkesfagl. utd. pr.

### 注

- 1) UFD, Rundskriv F-13/04, *Det er Kunnskapsløftet*, 2004年11月10日、年次予定は冊子版では9-10頁。なお、ノルウェーの初等中等教育管轄官庁は2006年1月1日から Kunnskapsdepartementet (略称 KD) に再編されたが、英語表記は *the Ministry of Education and Research Department* で移管している。ノルウェー大使館の邦訳は「教育・研究省」であるが、本稿では「教育研究省」と訳し、適宜、時期の概略も示し得る UFD、KD の略記を用いる。
- 2) この教育課程改訂に関する筆者の研究課題意識は、端的には、①この改訂は、ノルウェーの平等主義的教育の伝統、並びに1994年の後期中等教育改革及び1997年の基礎学校改革を継承し現代的に発展させるものなのか、②それとも、「適合教育」*Tilpasset opplæring* (個人の生育条件・地域・性等に適合した教育) の名の下での、グローバル経済競争主義的教育への取り込み・競争主義教育への変質の始まりなのか、である。詳細は紙幅の都合で略す。
- 3) *Faget kristendoms-, religions-og livssynskunnskap* (略称 KRL)。宗教的な事情による。KRL とその改訂については、①拙著『ノルウェーの社会科、宗教・道徳教育及び生活指導に関する比較教育学的調査研究』(2003-05年度科研報告書)、2006年6月、7-12頁、参照。しかし、この12頁12・13行目の「国連人権委員会」は誤記。正しくは「欧州人権委員会」である。

なお、2007年8月19日現在の Udir トップページの[2007年8月17日ニュース]によると、「欧州人権裁判所の同年6月29日判決に従って、ノルウェー政府は KRL 科目に関して

2008/2009学年度から教育法及び KRL 科目教育課程を改定する予定である」という  
<http://www.udir.no/> ⇒ Endrer KRL - faget [Nyhet, 17. 08. 2007] (07. 8. 23)。

- 4) Rundskriv F-13/04 *Det er Kunnskapsløftet*. この通知題目の直訳は「これが知識向上だ」であるが、*Kunnskapsløftet* は *Kunnskapsløft* の「定型」(英語で言えば定冠詞 *the* を付けた意味になる名詞の型) であり、特定の「知識向上」、この場合は上記の UFD が決定した「知識向上」のための特定の教育課程乃至は教育政策、方針等の意味になる。本稿では、原則として「知識向上教育課程」と訳す。なお、ノルウェーの学年度は 8 月～翌年 6 月。
- 5) 本稿・注 3) 前掲拙稿・科研報告書 9 - 10、20 - 21 頁、参照。

- 6) Vedlegg 1 til rundskriv F-012-06 Rev. 07. 08. 2007 *Fag-og timefordelingen i grunnopplæringen - Kunnskapsløftet*. 資料源：<http://www.regjeringen.no/nb/dep/kd> ⇒ fag-og timefordeling ⇒ Nyhet, publisert 07. 08. 2007 Revidert rundskriv om fag-og timefordeling i grunnopplæringen ⇒ 詳細検索 Les rundskrivet her (07. 12. 16)。

本稿での Internet 資料源の提示は次のようにする。①⇒の次に検索語を示す。②⇒前の Internet 画面から検索するには、(Ctrl キー + f キー) 検索またはノルウェー語画面の Søk 検索を要する場合には検索語を《 》で括る。③画面上の語句に~~~~~を引いてその語にリンクが設定されていることを示す。④末尾 ( ) 内に確認年月日を記す。

なお上記 Nyhet の頁は、後に本稿で翻訳を示す付記 D 以外に次のリンクを示している。

- ①Rundskriv F-012-06 - brev (PDF)、Forord av statsråd Øystein Djupedal (PDF) ②Vedlegg 1 : Fag-og timefordeling (PDF) ③Vedlegg 2 : Tilbudsstruktur (PDF)、Vedlegg 3 : Adresseliste (PDF) ④Oversikt/historikk over oppdateringer av rundskriv F-012-06 「通知 F=012-06 の更新の経過概要」。この④の内容項目として次の A ~ D の記述がある。A. 付記 2 (教育課程の構造) : 2006. 11. 01 改訂 A. Vedlegg 2 (Tilbudsstruktur) er revidert 01. 11. 2006。B. 付記 1 (科目及び時間配分改正) : 2006 年 12 月 19 日改正 B. Vedlegg 1 (Fag-og timefordeling) er revidert 19. 12. 2006。C. 付記 2 (教育課程の構造) : 2007 年 5 月 14 日改訂 (2007 年 6 月 6 日修正) C. Vedlegg 2 (Tilbudsstruktur) er revidert 14. 05. 2007 (korrigert 06. 06. 2007)。D. 付記 1 (科目及び時間配分) は 2007 年 8 月 7 日改訂された D. Vedlegg 1 (Fag-og timefordeling) er revidert 07. 08. 2007。
- 7) [http://www.udir.no/templates/udir/TM\\_Artikkel.aspx?id=2120](http://www.udir.no/templates/udir/TM_Artikkel.aspx?id=2120) ⇒ 《Underveis i Kunnskapsløftet - en hjelp til å forstå læreplanene》⇒ 《Læreplanverket for Kunnskapsløftet》(2007. 12. 16)。
- 8) 原文：“Læreplanverket er forskrift med hjemmel i opplæringsloven og er forpliktende for grunnopplæringen.”。forpliktende は binding の意味 (*Engelsk stor ordbok med iFinger*, Kunnskapsforlaget, 2001.)。また、være forpliktet til はフランス語では être obligé de (+ inf.) (*Fransk ordbok*, Kunnskapsforlaget, 1999)。
- 9) *Læreplan for grunnskolen, videregående opplæring og voksenopplæring, generell del*. これは当初小冊子で出版されたが、後、次の本に集録された。KUF, *Læreplanverket for den 10-årige grunnskolen*, Nasjonalt Læremiddelsenter, 1996, Oslo. なお、次の URL にも掲載されている。<http://udir.no/> ⇒ 《L97 - Læreplanverket for den 10-årige grunnskolen》(2007. 8. 9)
- 10) 1998 年法律第 61 号「基礎学校及び後期中等教育に関する法律 (教育法)」
- 11) ④は①の「一般篇」が教育理念・目的として詳細叙述している人間像の諸側面。
- 12) この諸原則の主要部分は拙稿「ノルウェーの教育制度における児童生徒の資質・能力等」『諸外国における学校教育と児童生徒の資質・能力』(研究代表山根徹夫、国立教育政策研究所・2007 年、147 - 158 頁・所収) の「4 教育方法と資質・能力」に訳出した。なお、同稿「3」の (1) における教育課程改訂年次は「2006/07 年」、KRL (キリスト教、宗教及び人生観科) 科目の改訂年次は、20005/06 の誤記である。同稿の誤記訂正が必要な旨をこ

ここに記す。この「教育諸原則」の全文は、次の URL に掲載されている (2007. 8. 19)。

[http://www.udir.no/upload/larerplaner/Fastsatte\\_lareplaner\\_for\\_Kunnskapsloftet/prinsipper\\_for\\_oppleringen.rtf](http://www.udir.no/upload/larerplaner/Fastsatte_lareplaner_for_Kunnskapsloftet/prinsipper_for_oppleringen.rtf)。なお、この諸原則は、①教育告示 Læringsplakaten、②社会的文化的コンピタンス、③教育と教育戦略に対する動機 (付け) Motivasjon、④生徒支援、⑤適合教育及び機会の平等 Tilpasset opplæring og likeverdige muligheter、⑥教員及び指導員 (見習い企業の実習指導員) の能力と役割、⑦家庭との協働 Samarbeid、(地域社会との協働、で構成されている。

今回の「教育諸原則」は、1997年の義務制学校の教育課程要領で定められていた「教育 (のための) 諸原則と指針」と比べると、後期中等教育にも適用される大きな変化もあるが、内容的には極めて大まかに言うと、機会の平等を依然として維持・強調しつつも、諸個人の資質・能力や生育背景に「適合 (した) 教育」tilpasset opplæringを進めることを一段と強調しているという感触が大きい。

- 13) サミー議会は、ノルウェーのサーミ人を代表する会議であり、1987年7月12日のサーミ法及び1988年の憲法改正に従って設立された。これは、サーミ人集団がその社会生活とその文化を確保し発展させ得るに望ましい条件をつくる権限を与えられている。サーミ議会は、憲法とサーミ固有の合意において、1964年以来設けられていたサーミ委員会 sameråd に代わって、ノルウェーのサーミ人の直接選挙で選ばれた43人の代表で構成されている。2005年の選挙は登録者12,500人の内8,926人が投票した。Aschenhoug og Gyldendals, *Store norske leksikon*, <http://www.snl.no/> (2007. 8. 13)。
- 14) *ILO-konvensjon nr. 169 om urbefolkninger og stammefolk i selvstendige stater. Convention (No. 169) concerning Indigenous and Tribal Peoples in Independent Countries.* ILO 第76回総会で1989. 6. 27採択。1991. 9. 5 発効。日本は未批准。① ILO 駐日事務所 [http://www.ilo.org/public/japanese/region/asro/tokyo/standards/st\\_c169.htm](http://www.ilo.org/public/japanese/region/asro/tokyo/standards/st_c169.htm) ② Office of the High Commissioner for Human Rights, <http://www.unhchr.ch/html/menu3/b/62.htm> (2007. 8. 15)、参照。
- 15) <http://www.udir.no/> ⇒ 左欄 *Velg tema* ⇒ læreplaner ⇒ Fastsatte læreplaner for Kunnskapsløftet - grep ⇒ Kunnskapsløftet - fag og læreplaner (知識向上 - 科目と教育課程) (07. 8. 15)。
- 16) 高等教育進学を基本として一連の教育課程提供を受ける。
- 17) <http://www.regjeringen.no/> ⇒ Rundskriv F-012-06 Innføring av Kunnskapsløftet (2007. 12. 16)
- 18) *Vedlegg 1 til rundskriv F-012-06 Fag- og timefordelingen i grunnoppleringen - Kunnskapsløftet*
- 19) *Vedlegg 1 til rundskriv F-012-06 Rev. 07.08.2007, Fag- og timefordelingen i grunnoppleringen - Kunnskapsløftet*。資料源は、下記。  
[http://www.regjeringen.no/upload/KD/Rundskriv/2006/F\\_12\\_06\\_vedlegg1\\_fag\\_timefordeling\\_kunnskapsloftet\\_rev070807.pdf](http://www.regjeringen.no/upload/KD/Rundskriv/2006/F_12_06_vedlegg1_fag_timefordeling_kunnskapsloftet_rev070807.pdf) (2007. 8. 7)
- 20) 資料源：<http://www.regjeringen.no/> ⇒ 《Tilbudsstrukturen》⇒ 《Revidert rundskriv om fag-og timefordeling i grunnoppleringen》⇒ Vedlegg 1 : Fag-og timefordeling (PDF)。  
表番号を付けずに「別表」とするのは、「表5」以下の表番号をその原典の Tabell 番号と合わせたいからである。よって、本稿における「表7」の次からは表番号は連続していない。

なお、注6) 前掲の国研拙稿152頁の「表4」では、2005年11月23日に UFD が発表した「2006年秋からのすべての者のための知識向上 (政策)」*Kunnskapsløftet for alle fra høsten 2006* (Pressemelding, Nr. 085-05, Dato: 23. november 2005) における「後期中等教育の旧・新対照表」を示しが、この2007年6月6日修正「知識向上教育課程の提供構造」に接して、

この旧・新概念対照表における訳語は、( ) 内に示す旧訳を次のように改める。

Utdanningsprogram 学科 (旧訳語・学科課程)、Programområde 専門分野、又は、学科  
(旧訳語・課程領域)、Programfag 専門科目 (旧訳語・学科課程科目)。

——2007年12月18日——